

決 裁	議 長	局 長	主 事

受付

報 告 書

令和 年 月 日

湯前議会議長 金子 光喜 様

湯前町議会議員

議員派遣として参加した研修会議の内容は、次のとおりでした。

期 間	令和7年2月19日(水) 13:30～15:00
場 所	錦町 パルティール福寿庵
目 的	令和6年度球磨郡町村議会及び人吉市議会合同研修会

報 告 の 内 容	※派遣議員：全議員
	1. 研修内容 講師：永江 友二 氏〔くま川鉄道株式会社 取締役社長〕 演題：「くま川鉄道の存在意義」 <研修会の目的>（宮原 人吉市議会議長より） ◎くま川鉄道の重要性を理解する ◎球磨郡町村議会と人吉市議会の連携強化 <研修の主なポイント> ◎鉄道の歴史 ◎くま川鉄道の現状と課題 ◎地域経済への影響 ◎交通手段の選択 ◎工事の進捗状況 ◎地域活性化と観光促進 ◎地域住民の協力 ◎災害後の活動と収入源の確保 など

2. 所感

現時点における比較検討の結果は、バスやBRTよりも鉄道の優位性が高いとのこと。しかし、くま川鉄道を持続させるには、今後の人口動態や経済状況、交通需要の変化など、人吉球磨全体の発展が不可欠である。まずは、まんが美術館やレールウイング複合施設の再整備が、人吉方面からの誘客につながることを期待する。地域住民の皆さまには、くま川鉄道を存続させた理由や復旧への努力、全線開通した後の活用方法などをお知らせし、理解と協力を求めていく必要がある。

【参考1】印象に残った情報

- * 鉄道は、明治5年に新橋と横浜間で営業運行を開始。
- * 明治20年に九州鉄道が開通、人吉一湯前線が大正13年に開業。その当時、第4橋梁(322m)ができた。今回架け替えるトラス橋の長さは397.3m。
- * 開業当時の利用者は140万人、直近では50万人を割り込んでいる。
- * 高校生の利用者は通常7～8割だが、直近では9割を超えている。1日1600人が利用している。
- * ローカル線83線区が「特定地方交通線」として廃止の対象になった。
- * 復旧費は、概算で約46億円だったが、総額約50億円に増え、更に物価高騰で55億円ほどに膨らむ見込み。
- * くま川鉄道の運営費用は約2億円、年間8000万円の赤字。
- * くま川鉄道にある有形文化財は19カ所(今回1カ所無くなる)。
- * バス代替輸送に年間約3億3000万円。

【参考2】研修から考える今後のアクション案

- 「くま川鉄道」重要性の啓発
- 球磨郡町村と人吉市の連携強化
- 鉄道活用戦略の策定
- 駅周辺の魅力アップ事業 ○ 鉄道と環境保護活動の連携
- 地域住民の鉄道利用促進 ○ 地域住民との協力体制の強化
- 鉄道PR活動の強化
- 都市部や外国(台湾など)からの観光客誘致(沿線ストーリーでPR)
- 地域の魅力やグッズを活用したプロモーション活動
- グッズ販売の促進と新たな協力先の開拓
- 地域住民や学校等でYouTube 動画「くま鉄チャンネル」視聴の促進